

## Oil Market Review 24第1号

2024年（令和六年）

4月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

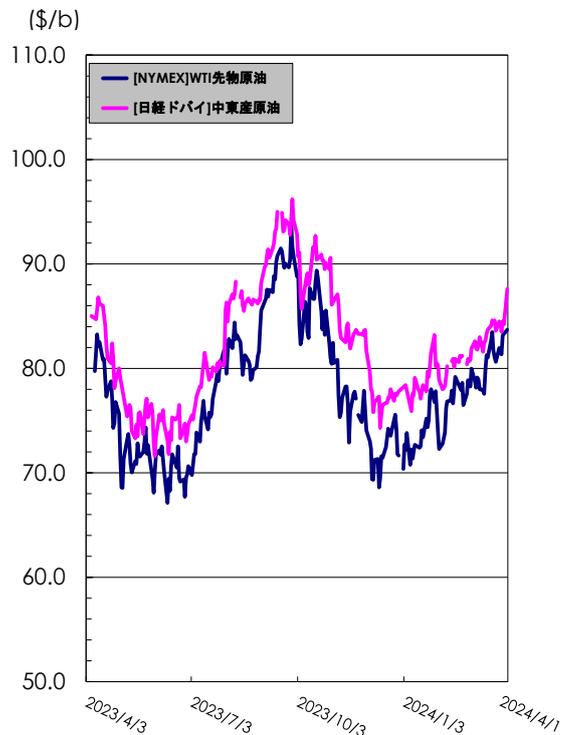
当週(3月28日～4月3日)の国際石油市場は、堅調に推移した。WTI先物は、28日、米中の景気回復期待で反発の83.17ドルで始まり、その後、三連休を挟んで、ウクライナ・パレスチナ情勢の緊迫化、特にイスラエルによる在シリア・イラン大使館攻撃も発生、3日にはOPECプラス閣僚監視委員会(JMMC)で現行減産体制の継続を合意、4営業日続伸し、85.43ドルで終わり、85ドル台に乗せた。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週(3月21日～27日)83.50～84.60ドルの範囲で推移したが、当週は、3月28日84.50ドル、29日84.20ドル、4月1日87.60ドル、2日88.20ドル、3日89.40ドルと堅調に推移した。

対ドル為替レート(TTM)は前週(3月21日～27日)150.79～151.59円の範囲で推移したが、当週は、3月28日151.52円、29日151.41円、4月1日151.43円、2日151.76円、3日151.60円と、円安傾向となった。

そのような中で、4月1日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円高、軽油も同0.1円高、灯油も1円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.6円となった。4月4日～10日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は23.9円(補助金がない場合の次週予想価格198.7円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は13.7円)となった。

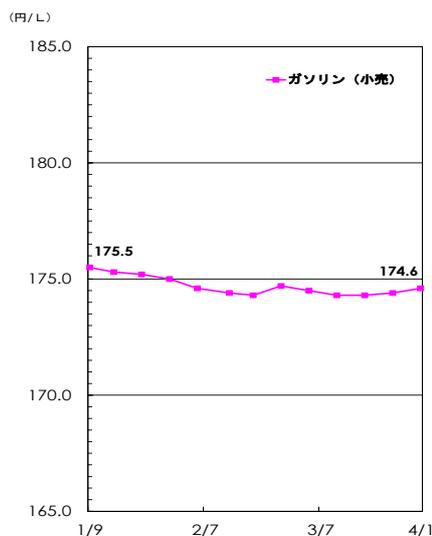
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/24 ~ 3/30	2,736 ▼ -79	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.1 ▼ -2.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/30	10,457 ▼ -92	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	4/1	87.60 ▲ 3.10	▲ 4.5
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/1	83.71 ▲ 1.76	▲ 3.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	82.98 ▼ -0.04	▼ -2.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	78,400 ▲ 386	▲ 5,912
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	150.20 ▼ -0.79	▼ -15.30
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/1	152.43 ➡ 0.00	▼ -18.28



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/24 ~ 3/30	832 ▼ -56	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	717 ▼ -53	▼ -
	輸出	"	116 ▼ -24	▲ -
	在庫	3/30	1,564 ▼ -1	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/26 ~ 4/1	81.0 ➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部) 4/1	81.0 ➡ 0.0	▲ 6.9
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/1	174.6 ▲ 0.2	▲ 6.5

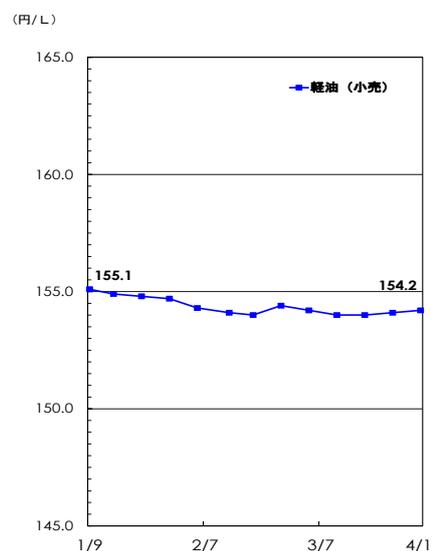
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

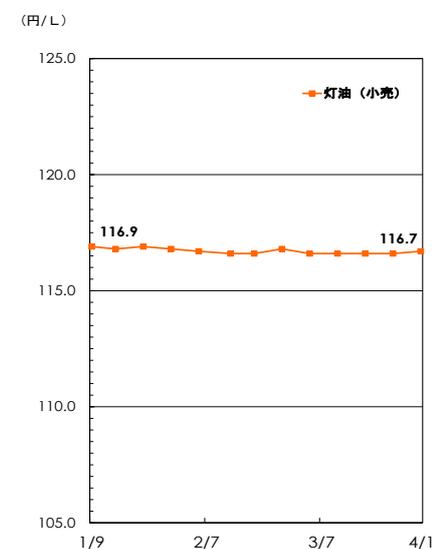
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/24 ~ 3/30	744 ▲ 39	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	615 ▲ 4	▲ -
	輸出	"	287 ▲ 147	▲ -
	在庫	3/30	1,341 ▼ -157	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/26 ~ 4/1	83.0 ▲ 0.7	▲ 4.3
		(TOCOM/中部) 4/1	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/1	154.2 ▲ 0.1	▲ 5.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/24 ~ 3/30	286 ▲ 34	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	335 ▼ -10	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	3/30	1,113 ▼ -49	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 3/26 ~ 4/1	82.6 ▲ 1.3	▲ 7.6
		(TOCOM/中部) 4/1	83.0 ▲ 1.0	▲ 6.7
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/1	116.7 ▲ 0.1	▲ 5.6



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(3/21～3/27)のNYMEX・WTI先物市場は80.63～81.95ドルの範囲で推移した。

当週、3月28日は、米国の堅調な経済指標を背景に、安値拾い・3連休前のポジション調整の買いもあって、3日ぶりに反発して始まった。4月3日開催予定のOPECプラスの閣僚監視委員会(JMMC、WEB開催)で現行減産体制が維持されるとの観測も値上がり要因となった。5月物終値は前日比1.82ドル高の83.17ドル。

週末29日は、聖金曜日(グッドフライデー)の休日につき休場。

週明け1日は、米中両国の好調な経済指標を背景に両国の景気回復期待・燃料消費拡大期待が高まるとともに、引き続きOPECプラスの減産継続観測で、続伸した。5月物終値は前日比0.54ドル高の83.71ドル。

2日は、イスラエルによる在シリア・イラン大使館へのミサイル攻撃に伴う革命防衛隊幹部殺害、また、ウクライナによるロシア製油所への新たなドローン攻撃が発生、中東・ウク

ライナ双方での緊張の高まりで、供給不安が高まり、続伸した。5月物終値は前日比1.44ドル高の85.15ドル。

3日は、イランによる前日のイスラエルのイラン大使館への攻撃に対する報復宣言、OPECプラス閣僚委員会における現行減産体制の維持確認で、4営業日続伸し、昨年10月下旬以来の約5か月ぶりの高値を記録した。なお、米国石油在庫週報で、原油は予想外の積み増し、ガソリンは予想を上回る取り崩しで、まちまちの結果となった。5月物終値は、同0.28ドル高の85.43ドル。

2 海外/米国石油市場

4月3日発表の29日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比320万バレル増と市場予想(同150万バレル減)に反する2週連続の積み増しだったが、ガソリンは同430万バレル減と市場予想を(同80万バレル減)を上回る取り崩しで、市場への影響はほとんどなかった。

EIAによると4月1日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.6セント安の1ガロン3.517ドル(141.5円/ガロン)と5週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.8セント安の1ガロン3.996ドル(160.7円/ガロン)と3週ぶりの値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、3月28日時点で、前週比3基減の506基と2週連続の減少であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年3月24日～3月30日に休止したトッパー能力は30.3万バレル/日で、前週に対して横ばい(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は273.6万klと、前週に比べ7.9万kl減少。前年に対しては21.0万klの減少。トッパー稼働率は76.1%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては3.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.3%減、ジェット/23.0%減、灯油/13.4%増、軽油/5.6%増、A重油/13.4%減、C重油/22.4%減。今週のC重油の輸入は0.8万kl(前週比0.8万kl増)。軽油の輸出は28.7万kl(前週比14.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はジェット、軽油、A重油で増加し、他の油種で減少した。前年比ではガソリン、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は71.7万kl(対前週6.9%減)と2週振りに減少した。ジェット13.1万kl(対前週21.3%増)、灯油33.5万kl(対前週2.8%減)、軽油61.5万kl(対前週0.6%増)、A重油24.3万kl(対前週27.2%増)、C重油9.8万kl(対前週7.4%減)。

(単位：千L)

	今週 (3/24～3/30)	前週 (3/17～3/23)	前週比
ガソリン	717	770	▼53 (-7%)
ジェット燃料	131	108	▲23 (21%)
灯油	335	345	▼10 (-3%)
軽油	615	611	▲4 (1%)
A重油	243	191	▲52 (27%)
C重油	98	106	▼8 (-8%)
合計	2,139	2,131	▲8 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

3月30日時点の在庫は全て他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは156.4万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては1.9万kl少ない。

灯油は111.3万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては16.8万kl少ない。

軽油は134.1万kl、前週差15.7万kl減。前年に対しては23.6万kl多い。

A重油は60.1万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては11.6万kl少ない。

C重油は173.0万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては2.0万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/30)	前週 (3/23)	前週比	
ガソリン	1,564	1,565	▼ -1	(-0%)
ジェット燃料	682	775	▼ -93	(-12%)
灯油	1,113	1,162	▼ -49	(-4%)
軽油	1,341	1,498	▼ -157	(-10%)
A重油	601	655	▼ -54	(-8%)
C重油	1,730	1,740	▼ -10	(-1%)
合計	7,031	7,395	▼ -364	(-4.9%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

3月26日～4月1日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安の進行で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。

上記コスト上げに、補助金増額分を考慮すると、4/4～4/10の実質卸価格は値上げとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

4月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の174.6円、軽油も0.1円高の154.2円、灯油は18%ベースで1円の値上がりの2,100円(1%ベースでは0.1円の値上がりの116.7円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は3週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がり率が30道府県、横ばいは栃木・兵庫2県、値下がり率が15都県だった。全国最安値は徳島県の166.9円、その次は岩手県の168.3円であった。他方、最高値は長野県の185.5円。最も値上がりしたのは福井県(同1.9円高)、最も値下がりしたのは佐賀県(同2.4円安)だった。

次回調査時(4/8)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/1)	前週 (3/25)	前週比	直近高値
レギュラー	174.6	174.4	▲ 0.2	23/9/4 186.5
灯油	116.7	116.6	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.1	▲ 0.1	08/8/4 167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第2号) の公表は、4/12 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。